

その日、  
僕は天女を道端で  
拾った。

雨の降る中、  
その天女は  
捨てられた  
子猫のように  
震えていた。

ガ  
ー

ガ  
ー

その天女は、  
名前を「アメリカ」と  
名乗っていた。



僕の名前は  
タツヤ。  
平凡な学生だ。

大学からの帰り道、  
陰キヤな僕は  
誰からも誘われず  
平凡な週末を迎える  
予定だった…。


どこか舞い降りる  
ところを間違えたのか  
と思えるくらい  
不相応な場所に、  
裸に薄い布を纏<sup>まと</sup>って…

その天女は  
じっと  
何かを見つめていた。

あまりにも雨で  
ずぶ濡れなので、  
恐る恐る声をかけて  
みると家まで付いて  
来てくれた…

ザザ

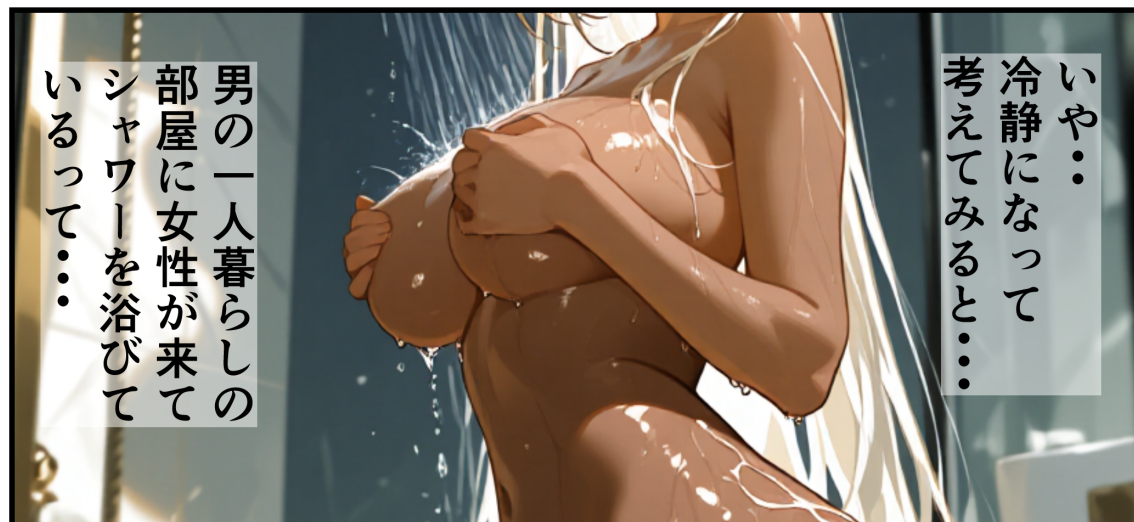




彼女は今シャワーを  
浴びている…。

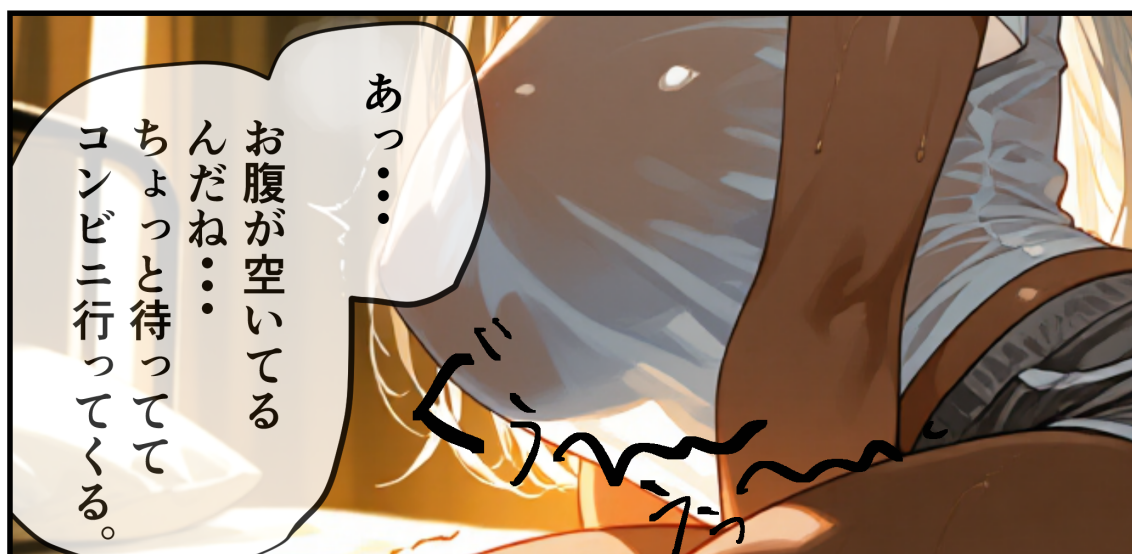
さすがに、  
あのままではと  
思って家まで連れてきたけど…

やっぱり警察に  
連絡すべきかなあ…  
どこの誰かもわからないし  
名前以外喋らないし…。















すごい夢中で  
食べて、寝た…。

フヤ

フヤ



街頭の光や、  
車のライトに  
照らされる度に  
神々しく見える…



寝顔も可愛い…  
こんな子が家に…

また考えるだけで  
鼓動が早くなる…

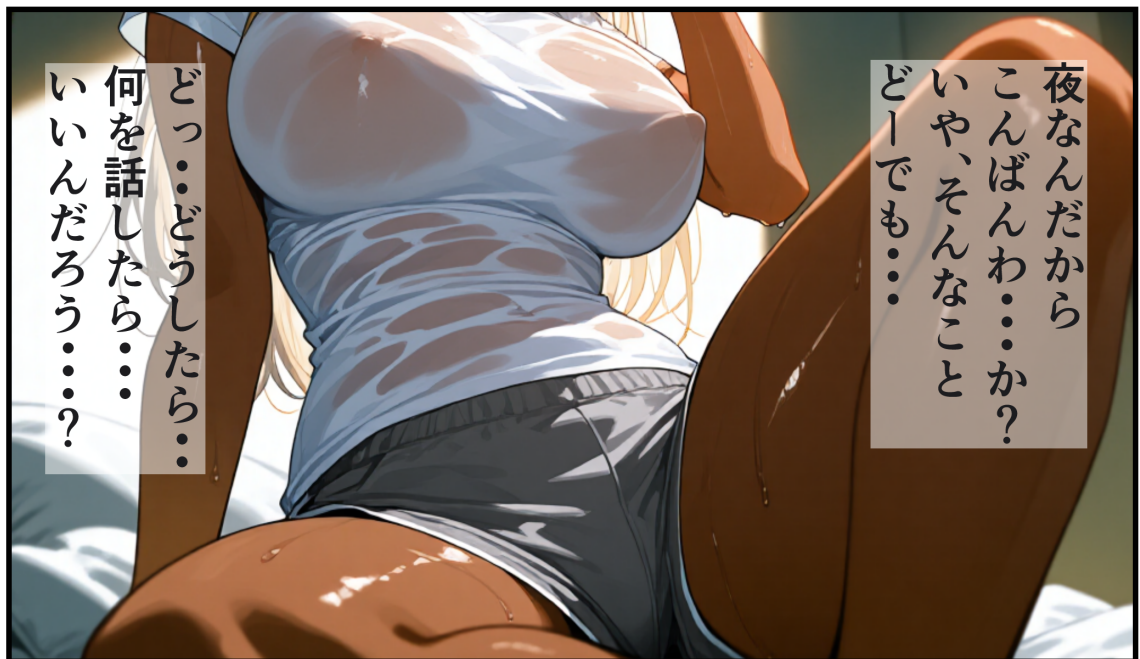




えっ…  
もう起きた？

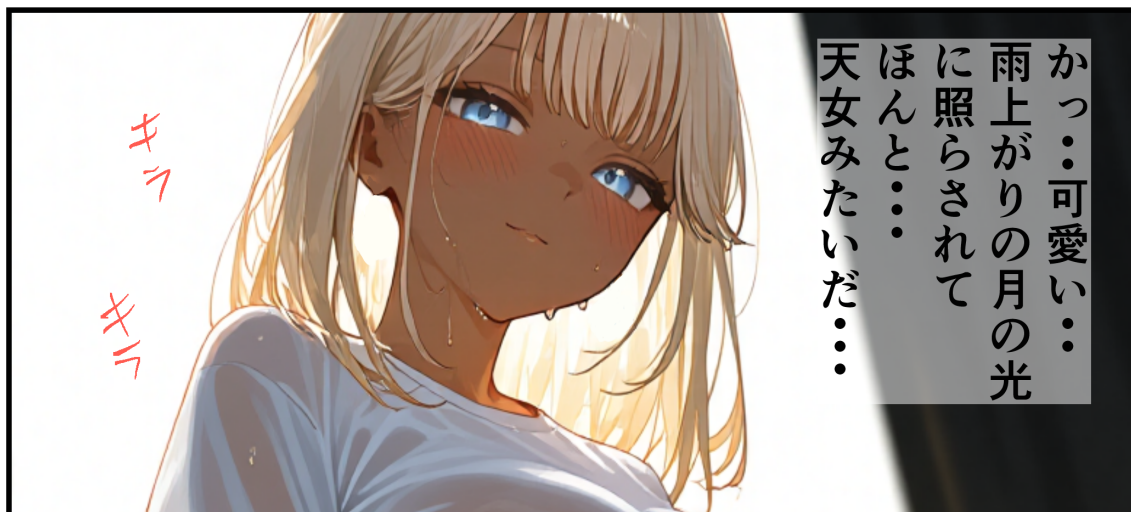
フー

あ…あの  
おはよう…



夜なんだから  
こんばんわ…か？  
いや、そんなこと  
どーでも…

どっ…どうしたら…  
何を話したら…  
いいんだろう…？







あ…あの…  
あの…これ…

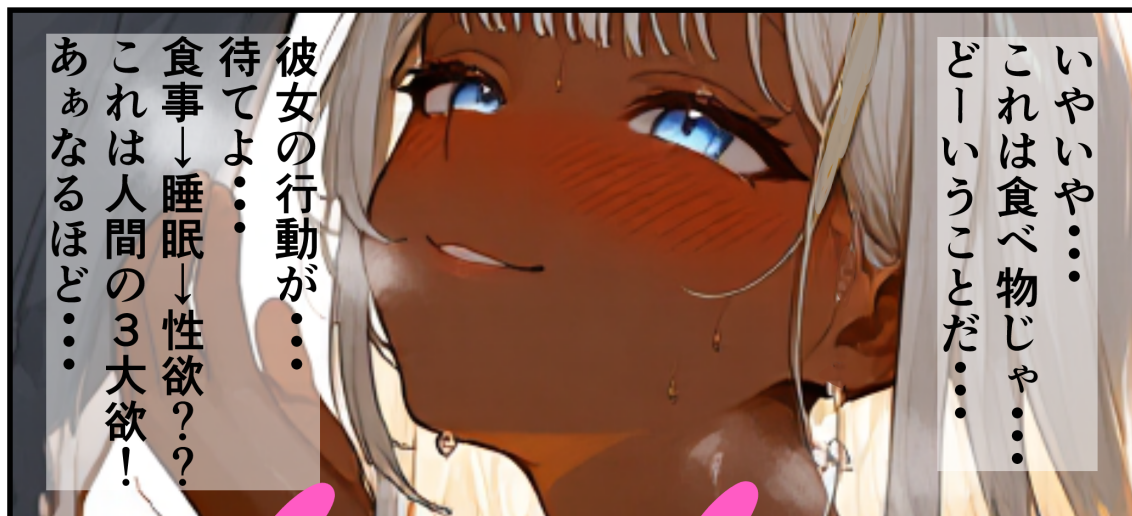
えっ…  
何なに?えっ…



ほしっ…  
欲しい…

えっ…  
何何…  
理解が追いつかん…





いやいや・・・  
これは食べ物じゃ・・・  
どーいうことだ・・・

彼女の行動が・・・  
待てよ・・・  
食事↓睡眠↓性欲?..  
これは人間の3大欲!  
あぁなるほど・・・



って・・・なるほど  
じゃねー・・・  
って・・・いいのか? いいの?

これ・・・  
私、これが  
欲しいです・・・

ほっほっほ

ほっほっほ